

はだか う
裸で生まれた…



つみ おか まえ はだか
《罪を犯す前にアダムとエバは裸で
それを全く気にしておらず、ごく当
り前のことでした。ところが罪を犯してか
らは裸の状態が気になり、恥ずかしく感
じるようになった》と創世記は語ってい
ます。(創世記2章25; 3章7~10)

たんじゅん はなし わら
「ずいぶん単純な話だな」とあざ笑う
気分になる人がいるでしょうが、一私は
違います。—この物語を書いた著者はさ
すがに、人間の心理をよく知っており、鋭
い目で人間の関わり合いを観察してきた
ひと かんしん
人だと感心します。

●「裸を気にしないことは何も隠す必要
がなく、飾る必要もないことを言い表し
ています。日本語の「裸の付き合い」と
いう言葉はそれに近いことを言っている
のではないかと理解しています。ところが

いつわ しんにゆう はだか た
「偽り」が侵入すると「裸」は耐えが
たい状態になります。—不倫を対象にす
るフィクションドラマがよく描いている
ように。

いつわ じょうたい ひと あし
偽りの状態がばれないために、人は足か
せとなる嘘の連鎖に身を縛ってしまいま
す。網にかかった魚のようですが、自分で
編んだ網です。自分のみにくいことを
しょうじき みと あらた まえ みち
正直に認めれば、改めることの前には道
が開くのですが、ほとんどの場合、人はそ
のみにくいことを必死に隠そうとあわて
ています。



ニコデモに話し
た時にイエスは
そのことに触れ
ました。「悪を
行う者は皆、
光を憎み、その
行いが明るみ
に出されるのを
おそ 恐れ 光の方
に来ない。しか
し、真理を行
う者は光の方に

くる。その行いが神に導かれてなされた
ということが明らかであるからです」と。

(ヨハネによる福音書3章20~21) 裸で
生まれ、裸にされ、十字架にかけられた神
イエスは、当時の多くの人の飾られた心

を見抜き、その態度を公に批判したために人々はそれに耐えることができませんでした。「裸になれ」という呼びかけに耳をふさいだので、解決方法としてイエスの声を黙らせることしかないという結論に至りました。



*待降節に入るに当たり、神の御前で飾りなしに自分のありのままの姿をじっと見つめるようにしましょう。言い訳ばかりして、自己弁解を重ねるだけでは「裸」で生まれた神の人間としての誕生を相応しい心で迎えることは出来るはずがありません。神との関係、人との関係において自分を飾るばかりでは偽りの関係しか結ぶことができず、自分自身は偽善者として振る舞っていることが一旦ばれると、まさに「裸」にされ、「恥」をかき、人の信頼を失ってしまいます。寒い冬の夜にお風呂に入る前に服を脱ぎ、裸になるには抵抗を感じるように、自分の飾りのない心を見るには勇気がいられます。しかしそれは決して恥ずかしいことではなく、救いを迎えるための条件であることを新たに確認すべきではないかと思えます。

…無言の幼子。

「裸」で生まれ、飼葉桶に寝かされた「無言」の幼子の姿が目浮かびます。一後に大人になった幼子は3年近くもの間、「神の言」(ヨハネ1章1)としてかけがえのない「ことば」、今まで人の耳に届いたことのない、重みのある「ことば」(ヨハネ7章46)を宣べ伝えましたがどうして自分の手で「ことば」を書き残さなかったのでしょうか。この素朴な疑問に対する答えは幼子の「裸」で、「無防備」で「無言」の姿に秘められているような気がします。

●騒音、雑音が消えた時 ●飾りを片付けて裸になり心を開いた時 ●ガードを固めることをやめて、無防備になった時、初めて神の神秘に触れ、神との交わり、真の信仰に誕生することができるということです。

*教会の暦の上で新年の暁である待降節の間に神の言葉を味わい、静かに黙想するために、沈黙の時間を作るように心がけましょう。ゆるしの秘跡をはじめ、主日の感謝の祭儀を大切にするることによって心の準備をし、「神の言」である無言の幼子を迎えることができるように共に歩んでみようではありませんか。

